

《担当者名》○竹生礼子 [take-r@hoku-i-ryo-u.ac.jp]
川添恵理子 [e-kawa@hoku-i-ryo-u.ac.jp]

【概要】

在宅看護実践の実習

臨地実習での学びを踏まえ、多様で複雑な課題をもつ（主として精神疾患をもつ）療養者・家族、終末期を在宅で過ごす療養者・家族に対して、理論やモデルを活用し、自ら在宅看護スペシャリストの卓越した実践、教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整、研究の能力を駆使した看護実践を展開する。エビデンスに基づいてケアとキュアが統合された看護を提供することができる。

- 1：多様で複雑な課題をもつ療養者（主として精神疾患を持つ療養者）・家族を支援するにあたり、自らその能力を用いて在宅看護スペシャリストとしての役割を意識した実践を行う。
- 2：終末期を在宅で過ごす療養者に看護を提供するにあたり、専門看護師として、自らその能力を用いて在宅看護スペシャリストとしての役割を意識した実践を行う。

【学修目標】

- 1.
 - 1) 多様で複雑な課題をもつ療養者（主として精神疾患をもつ）・家族を支援するにあたり、専門看護師としての6つの能力の「卓越した実践」「教育」「相談」「連携調整」「倫理的問題の調整」「研究」とはどのようなものかを理解した上で、その能力を用いて在宅看護スペシャリストとしての役割を意識した実践を行うことができる。
 - 2) 療養者2名を受け持ち、理論やモデルを活用した看護実践および、エビデンスに基づいてケアとキュアを統合した看護実践を展開することができる。
 - 3) 多職種連携の実際を学び、在宅医療チーム構築の一部を実践することができる。
- 2.
 - 1) 終末期を在宅で過ごす療養者に看護を提供するにあたり、専門看護師としての6つの能力の「卓越した実践」「教育」「相談」「連携調整」「倫理的問題の調整」「研究」とはどのようなものかを理解した上で、その能力を用いて在宅看護スペシャリストとしての役割を意識した実践を行うことができる。
 - 2) 療養者2名を受け持ち、理論やモデルを活用した療養者理解と、エビデンスに基づいてケアとキュアを統合した看護実践を展開することができる。
 - 3) 多職種連携の実際を学び、在宅医療チーム構築の一部を実践することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習課題	-1. <ul style="list-style-type: none"> 1) 多様で複雑な課題をもつ療養者（主として精神疾患をもつ）・家族に対し、専門看護師としての「卓越した実践」「教育」「相談」「連携調整」「倫理的問題の調整」「研究」の6つの能力を用いて在宅看護スペシャリストとしての役割を意識した実践を行う。 2) 療養者2名を受け持ち、理論やモデルを活用した看護実践および、エビデンスに基づいてケアとキュアを統合した看護実践を展開する。 3) 多職種連携の実際を学び、在宅医療チーム構築の一部を実践する。 -2. <ul style="list-style-type: none"> 1) 終末期を在宅で過ごす療養者・家族に対し、専門看護師としての「卓越した実践」「教育」「相談」「連携調整」「倫理的問題の調整」「研究」6つの能力を用いて在宅看護スペシャリストとしての役割を意識した実践を行う。 2) 療養者2名を受け持ち、理論やモデルを活用した療養者理解と、エビデンスに基づいてケアとキュアを統合した看護実践を展開する。 3) 多職種連携の実際を学び、在宅医療チーム構築の一部を実践する。 	竹生 川添
	実習方法	1. 実習目的を達成するための、実習計画書を作成し、計画に則って実習を行う。	

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>受け持ち事例の看護の展開（各2事例）、既習の理論やモデルの中から対象者の理解や援助に役立つものを選択し、活用して事例を展開する。</p> <p>2. -1 訪問看護ステーション（精神看護専門）：多問題・困難課題を抱える療養者・家族に対し、自らケアを実践する。受け持ちの看護師としてエビデンスに基づいたアセスメント、援助計画、実践、評価、再アセスメントの一連の看護過程を展開する（2週間以上）。当該事例のケア提供者および多職種と協働し、看護師としての卓越した実践、教育、相談、連携調整、研究、倫理的問題の調整を行う。</p> <p>3. -2 在宅療養支援診療所（緩和ケア専門）：終末期を在宅で過ごす療養者に対し、自らケアを実践する。受け持ちの看護師としてエビデンスに基づいたアセスメント、援助計画、実践、評価、再アセスメントの一連の看護過程を展開する（2週間以上）。当該事例のケア提供者および多職種と協働し、看護師としての卓越した実践、教育、相談、連携調整、研究、倫理的問題の調整を行う。</p> <p>4. 実習レポートの作成：展開した事例を理論やモデルに沿って説明する。 CNSの6つの機能を意識して、実践した活動について記述・考察する。 ケアとキュアを統合した看護実践とは何か、実践ができたかどうかを考察する。</p>	
	実習場所	<p>-1：訪問看護ステーション（精神看護専門：訪問看護ステーションやまのて） -2：在宅療養支援診療所（緩和ケア：ホームケアクリニック札幌）</p>	
	実習期間	多問題・困難課題を抱える療養者（主として精神疾患をもつ療養者）への看護場面、終末期にある療養者への看護場面につき各2週間、合わせて概ね4週間とするが、課題達成していない場合には延長する。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況（40%）、実習レポート（60%）

【学修の準備】

実習目的を明確にし、実習計画を立案する。実践を行う根拠となる文献の学習を日々継続して行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。